

幻の植物「ノナメ」

福岡市 佐藤広行

北海道大学総合博物館の植物ボランティアの方々と共に、大学院生の頃から何年も標本を整理する過程で、学名や難解な異名問題、標本の保存状態やタイプ標本と思わしき標本などの問題に行き当たった時、ボランティアさんに適宜助言等を行いつつ、標本庫で研究活動を行ってきました。今日では、各ボランティアさんは学芸員級に標本の扱いに長け、強固なチームワークで結ばれ、どこの標本庫から見ても恥ずかしくな

い標本管理体制を築けていると感じていた2018年頃のお話。

その日は木曜日のボランティア活動が行われており、記憶が不確かだが確か細川さんが、「佐藤さん、ラベルにノナメと書かれた標本が出てきて、学名が無いんだけど、学名は何だろうか、セリ科っぽいんだけど」(図1)と、いつものように問題に行き当たり、解決に向け学名を調べることになりました。この標本は鳥山啓寄贈標本で、採集者は須川長之助と書かれている。北大総合博物館の植物標本庫にはこのようなラベルの標本があることが報告されており(高橋 2019)、ロシアの著名な植物学者マキシモヴィッチに送られた重複標本でタイプ標本が混じる可能性がある貴重な標本です。確固たるチームワークで結ばれた我々は、一斉に各人が抱えた問題を解決すべく、ノナメについて私は米倉・梶田のYList (URL: <http://ylist.info/>)で検索、本多さんは新日本植物誌(大井 1983)で調べ、吉中さんは北海道高等植物目録(松井・高橋 2015)、加藤さんもダブルチェックでYListをチェックし、頼もしい各々の姿を横目に、数秒後に誰かが解決すると思いつつも、標本整理について百戦錬磨と化した我々でもノナメの学名を調べることができませんでした。



図1 問題となったノナメ標本(セリ科)

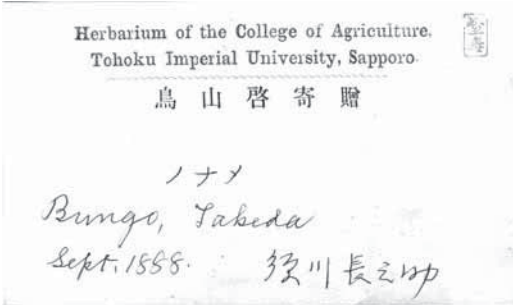


図2 ノナメ標本下方のラベル拡大図

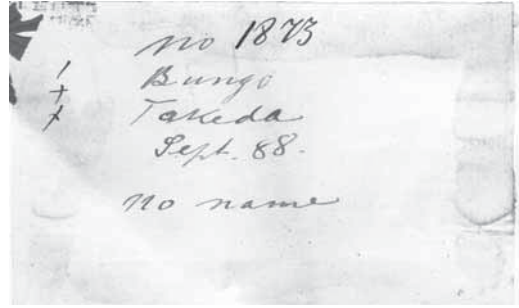


図4 ノナメ標本上方のラベル拡大図

見つからないセリ科「ノナメ」

一転大問題と化したノナメ標本。「いや、ノナメが全然載ってないんだけど、ちょっと標本ラベル見せて」と、そこで初めてラベルを確認すると、確かに標本ラベルには「ノナメ」と書かれていました(図2)。このラベルを見ると1888年に九州の大分県豊後地方にある竹田で採集されたと記されている。このラベルの上のスペースにもう1枚ラベルがあり、このラベルが元ラベルで下にあるものが清書したラベルであることがわかるが、元ラベルにも「ノナメ」と記され、さらにローマ字で「noname」と記されていた(図3)。

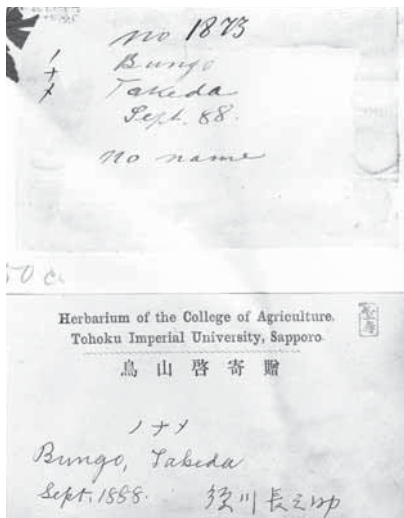


図3 ノナメ標本ラベル全景

ここで状況はさらに混迷を深めた。古く日本の植物について網羅的に収めた大井の日本植物誌に掲載されていないということは、1888年採集という時代を考えれば、掲載に漏れた古い地方の資料を辿らなければならない。北海道大学総合博物館には日本各地の植物相を調べられる資料が豊富であるが、九州地方の資料は北方系と比較すれば少ない。どの資料を辿ればノナメと記載された植物の原記載に辿れるだろうかと、深い思索に耽った。

幻の植物「ノナメ」

どの資料を辿ればよいか考え込んでいた時、加藤さんと本多さんがほぼ同時だったと思うが、解決に導く発見をする。「これ noname じゃなくて no name なんじゃないんですか」と。

場に激震が走り、再度 noname と書かれた方のラベルを見ると、たしかに no と name の間に微妙なスペースがあった(図4)。これは確かに「noname」ではなく「no name(無名)」と書かれたと読める。加藤さんが「これ、誰かが no name をノナメって読んで書き込んだんですよ」と全貌を明らかにする答えを口にした。この瞬間、ノナメという植物

はこの世には存在しない幻の植物となった。現在「ノナメ 標本」は実際には何の種なのか九州の植物学者に鑑定を依頼中で、今ではこの標本を見ると北大総合博物館での楽しい出来事を思い出す1枚となった。

誇るべき植物標本ボランティア

幻の植物となったノナメだが、誰かが困ったら手すきの人が一斉に調べ解決し、解決せずとも標本と向き合い解決に向けて努力する姿勢を見て、北大総合博物館の植物ボランティアは安泰と感じた。どの方達も植物標本に触れる機会が無く、学名に接する機会もほとんど無かった一般の方。博物館のボランティアとして標本に接してから数年で、助け合いながら皆さん成長したなと感慨深い出来事だった。

北大総合博物館の植物ボランティアは、最初はボランティアが組織される以前に標本管理者であった高橋英樹先生を慕う有志の4名から始まった。今ではこの活動も40名近くに達し、また新しいボランティアの方が来ても親切に迎えている状況を見て、ボランティア活動を補助していた佐藤が札幌を離れ

九州に異動することになっても、植物ボランティアの活動の継続について心配することは無かった。しかしながら、ボランティアさんと共に育ち、素晴らしいチームワークを築いて来た環境から離れるのはとても寂しく、折しも新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言を受け、多くの皆様とは顔を合わせる機会を逸したまま福岡へ旅立つこととなった。

仕事の合間を見て専門研究員として身を寄せる予定の九州大学総合博物館でも、北海道大学総合博物館と同様な植物ボランティアを組織できればと夢を見ながら、あの暖かい空間が北大総合博物館の標本と共にいつまでもあることを願っている。

(一般社団法人 九州オープンユニバーシティ)

引用文献

- 松井 洋(著)・高橋英樹(監). 2015. 北海道維管束植物目録. 自費出版, 札幌.
- 大井次三郎. 1983. 新日本植物誌. 至文堂, 東京.
- 高橋英樹. 2019. SAPS に所蔵されている〈鳥山啓寄贈〉標本の特徴. 北方山草 36: 39-44.